

新紙幣の顔に渋沢栄一

市民学芸員 松村 利訓

私の住んでいる富士見市には、水越門樋、山形樋管というレンガ造りの文化財があります。これらのレンガは深谷の日本煉瓦製造で造られたといえます。日本煉瓦製造を設立したのは深谷市出身の渋沢栄一(1840-1931)です。渋沢栄一は令和6年(2024)から、新一万円札の肖像画になります。

私が渋沢栄一と聞いて思い浮かぶのは、母校板橋第一中学校と養育院の間に立っていた銅像です(現在は東京都健康長寿医療センター公園内に移設)。台座だけでも高さ4.3mあり、その上に高さ3.75mのフロックコート姿のブロンズ像が座っています。学生の頃は登下校時に見上げるだけでしたが、今回、改めてその業績を調べてみました。

渋沢栄一の生家は、周辺の農家から藍の葉を買入れ、藍玉という藍染め原料に加工し、販売していました。そして、村内で一二を争う富農となったといわれています。

渋沢一族はこぞって学問や教育に熱心で、栄一は親戚筋から四書五経を用いた読み書きなどの教育を受けました。

青年期になると江戸で学問、剣術を学び、尊王攘夷の志士となり、攘夷の直接行動を計画しましたが挫折しました。その後は、江戸で知り合った一橋家



渋沢栄一像

ようじん 用人の勧めで、後の將軍徳川慶喜に仕える武士となりました。幕臣として、パリで行われる万国博覧会にも派遣され、二年近くヨーロッパ生活を体験します。しかし、その最中に幕府が崩壊したため帰国します。そして、静岡に商法会所を設立し、大きな利益を上げています。その能力を買われてか、新政府に呼ばれ、民部省(後の大蔵省)の租税正そぜいのかみに任命されます。加えて、省内の改革を進める部局である改正掛かひりを立ち上げその掛長を兼任します。政府で仕事をしたのは三年半ほどですが、この間に税制改革、貨幣制度、郵便制度、官営富岡製糸場の準備など多くの事業に関わりました。

その後、民間人となった栄一は、日本で最初の銀行である第一国立銀行(現みずほ銀行)をはじめ、後の東京ガス、東京海上日動火災保険、王子製紙、秩父セメント、帝国ホテル、東京石川島造船所、日本郵船、札幌麦酒、麒麟麦酒、東京証券取引所、など500以上もの企業の設立・育成に携わりました。

しかし、自らは財閥にならず「道徳経済合一」という理念を生涯にわたり貫き通しました。そのため、「日本近代資本主義の父」と言われています。

経済事業の他、様々な社会・公共事業に生涯献身しました。例えば、冒頭で紹介した体の不自由な人々や身寄りのない子供たちの世話をする養育院の初代院長を53年にわたり務めました。しかし、その多岐にわたる活動の全容は明らかになっていません。



水越門樋(上)と山形樋管(下)

市民学芸員のページ *このページは市民学芸員が原稿を執筆、編集しました。

難波田城 ちょっと拝見 みどころ紹介

石造物シリーズ④ 「鶴瀬西小学校歌碑」

難波田城公園の西門を入り、古民家ゾーンを蓮池に向かっていきます。そうすると、田んぼの前の桜の木の下に石で富士山をかたどった鶴瀬西小学校の校歌碑があります。

鶴瀬西小学校は鶴瀬駅の北西約三百メートルの村有地に昭和三十八年（一九六三年）に開校しました。当時、公団住宅が建築され、児童数が増加したことに対応してのことでした。

四十六年（一九七一年）、校歌の制定を行おうという声が挙がりました。これに呼応して、鶴瀬西小学校のPTAが、児童文学者の石森延男氏に作詞を依頼、続けて、中田喜直氏に作曲を依頼して校歌が完成しました。中田氏は「雪の降る街を」「めだかの学校」「ちいさい秋みつけた」などの作曲で有名です。こうして完成した校歌を刻んだ碑を、この年の卒業生が寄贈しました。



平成十八年（二〇〇六年）、鶴瀬西小学校は上沢小学校と統合し、つるせ台小学校になりました。この間、富士見は村から町、市へと発展を遂げています。鶴瀬西小学校と公団住宅の跡地は、いまや新たな街に生まれ変わり、校歌碑は難波田城公園に移設されました。今は無き鶴瀬西小学校の校歌碑は富士見発展の歴史を偲ばせるものなのです。

つるせ台小学校のすぐそばに住む私は、毎年鶴瀬西小学校跡地に残る二本の老桜が咲くのを楽しみにしています。

（池田恵寿）

おもしろ・なつかし体験⑥③
過去にタイムスリップした1日
～難波田城公園まつり参加記～

このコーナーは、難波田城公園での体験学習やイベントの紹介・報告・参加者の感想などを取り上げます。

この原稿依頼が来たとき、真っ先に思いついたのは、24kg という私が着用した甲冑の重さ、そして甲冑を着ているときの暑さです。20kg 超、これはスーパーなどで売っている大きな米袋2つ分です。また甲冑は全身隙間無く防備されているので、その暑さは、サウナに入っているようです。これで南畑八幡神社から難波田城公園まで約 800mを往復行進しています。

こんな辛い事を書くと、来年、一般参加の応募者が来なくなってしまうと責任者が心配するかもしれません。しかし、私がこんな過酷なことに挑戦するのは自分なりの思いがあるのです。

以前聞いた言葉で感銘を受けているものがあります。それは、「歴史を知るには、自分の住んでいる街

から勉強をする。そうすると、複雑な歴史が、ある一点につながり幅広く分かりやすくなる」というものです。これまで私は、資料館は、資料の展示をしているところ、ガラスケースの中という感覚を持っていました。難波田城公園まつりでは、一般市民が本物の甲冑を着用し鉄砲隊に参加できるのです。ほら貝の音とともに、武者行列をすることができるのです。そして自分の身近な地域の歴史を学ぶこともできます。

私は 70 歳になりましたがこれからも健康を維持し来年も参加します。皆さんも是非お越しください。
(大木克己)



人の創ったもの★人の使ったもの

ワタと綿繰り機

今回は、毎週土日に行われる「ちょこっと体験」でもおなじみのワタと綿繰り機を取り上げます。

資料館とワタ

難波田城公園では園内に古民家を移築展示しています。またその雰囲気や、かつての農村に近づけるために植栽なども展示の一環としています。園内のワタの栽培もその一つで、現在 2 つの団体が育てています。

①資料館友の会木綿部会

木綿部会は、旧鈴木家表門前の畑でアジア綿と呼ばれるワタを育てています。ワタを育て、糸を紡ぎ、布を織る、これらを、1 年を通して行っています。

②難波田城いきものがかり

いきものがかりは、園内で動植物に関する活動を行う団体です。植物は特に伝統的な作物を育てています。その中の一つに、埼玉県でかつて育てられていた埼玉綿（アジア綿の一種）があります。

ワタの栽培



アジア綿の花



綿花（アジア綿）

ワタの種まきは 4 月末から 5 月の連休の頃に行います。

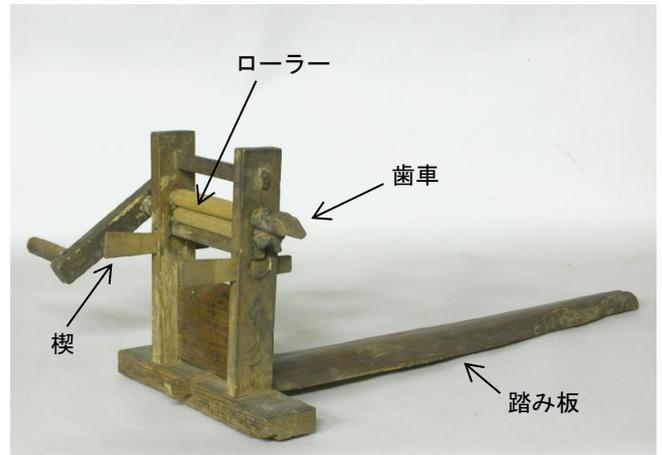
成長度合いにあわせて、追肥、土寄せなどを行うと、8 月～9 月にかけて花が咲きます。

その後ワタの実（コットンボールとも言う）が割れると、綿毛に包まれた種が中から出てきます。この様子が花のようなので、綿花とも呼ばれます。

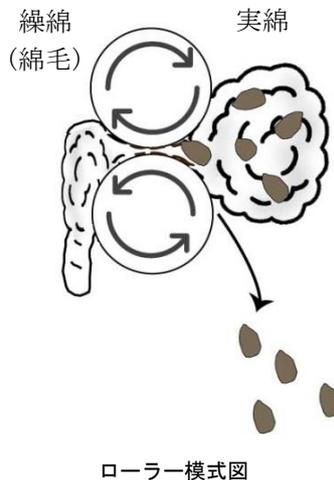
ワタと綿繰り機

ワタはその繊維が糸、布、布団などに使用されます。しかし、綿花は、その繊維が種に付着したまま（実綿）です。これを糸などの原料にするには、種を取り除いて繰綿にする必要があります。その際に使われるのが綿繰り機です。綿繰り機は持ち手を回すことで、下のローラーを回転させ、歯車を介して上のローラーを逆回転させます。そこに実綿をあてると、ワタの繊維（繰綿、綿毛）は、ローラーのすきまを通り抜け、種は手前に落ちる仕組みになっ

このコーナーでは、地元に関する資料を紹介いたします。今では使われなくなったものからわたしたちの身近な歴史をひもといてみたいと思います。



当館所蔵の綿繰り機



ています。また、ローラーの下にある楔は、2 つのローラーの隙間を調整するためのものです。そして直角に伸びている板は、踏み板と呼ばれます。座布団をはき、その上に正座、またはあぐらをかき、作業中に綿繰り機が動かないようにします。

綿繰りの後

ローラーを使い繰り出した繰綿は繊維が固まっています。そのため、綿打ちという作業を行います。これは弓の弦の振動などを用いて繊維をほぐす作業です。これをした繊維は糸紡ぎができるようになり、そして布になっていきます。綿繰りはワタが布になる最初の工程です。

綿が紡ぐ縁

資料館でとれたワタは、糸に紡がれ、布へと姿を変えていきます。またそのときにとれた種は、綿繰り体験者へのプレゼント、あるいは春に資料館窓口、ホームページで配布されます。ワタからとれる繊維、種は共に次のもの、人へと紡がれていきます。

(田ノ上和宏)

* * 秋のイベント予定 * *

●資料館からのお知らせ

資料館は空調設備改修のため下記の期間、臨時休館致します。なお同期間中も公園、古民家は開いています。皆様にご不便をおかけいたしますが、ご協力のほどよろしくお祈いします。

期間／令和元年 10 月 7 日～令和 2 年 2 月 28 日

●マイミュージアム

「武田氏・山内上杉氏滅亡の道」

主催／富士見市古城をめぐる会

会期／8 月 31 日(土)～9 月 23 日(祝)

会場／特別展示室

●富士見市児童・生徒「社会科展」

市内小中学生による、夏休みの自由研究の作品を展示します。各校から選ばれた約 80 作品です。

会期／9 月 28 日(土)～10 月 6 日(日)

会場／特別展示室

●ふるさと体験「お月見だんごづくり」

とき／9 月 14 日(土) 午前 10 時～正午

定員／8 組(申込み順) 参加費／1 組 500 円

会場／旧金子家住宅 協力／市民学芸員

持ち物／エプロン、三角巾、持ち帰り容器

申込み／8 月 31 日(土)～9 月 7 日(土)に電話で

●拓本体験教室

石碑の文字を和紙に写しとる「拓本」を体験します。作品はカレンダーに仕上げ、持ち帰れます。

とき／10 月 5 日(土)

午前 10 時～午後 3 時

会場／講座室

定員／8 人(申込み順)

参加費／500 円(材料代)

持ち物／昼食

申込み／随時。直接または電話で

指導／資料館友の会拓本部会



昨年の作品

●ふるさと探訪

旧宿場と科学のまち・和光市を巡る

とき／10 月 12 日(土) 午前 9 時～午後 0 時 30 分

集合／和光市駅改札口

主な見学地／ニホニウムの道、白子富士、旧白子宿

定員／20 人(申込順)

参加費／500 円(保険料等、当日集金)

申込み／9 月 28 日(土)～10 月 10 日(木)に電話で

主催／資料館友の会ふるさと探訪部会・難波田城資料館

●さつまいも掘り(試食あり)

とき／10 月 27 日(日) 午前 10 時～正午

(小雨決行。悪天候の場合翌週に延期)

定員／30 組(申込み順) 集合場所／旧金子家住宅前

参加費／1 組 1,000 円。1 人で参加の方は他の方と組んでいただく場合があります。

申込み／9 月 29 日(日) 午前 9 時から電話で

主催／難波田城公園活用推進協議会・難波田城資料館

●古民家コンサート

とき／10 月 27 日(日) 午後 1 時 30 分～2 時

会場／旧大澤家住宅 出演／奏志朗(オカリナ)

定員／100 名程度(当日先着順) 参加費／無料

主催／難波田城公園活用推進協議会・難波田城資料館

●麦づくり体験(全 6 回)

公園内の田んぼの一部を使って麦を育てます。育てた麦はうどんや焼きびん、すいとんにして食べます。

とき／11 月 9 日、令和 2 年 1 月 25 日、3 月 7 日、6 月 13 日、6 月 27 日、7 月 11 日

定員／7 組(1 組 4 名以内、申込順)

参加費／1 組 1,000 円(通信費、材料代)

協力／難波田城いきものがかり

申込み／9 月 28 日(土)から電話で

●ちよつ蔵市(難波田城公園活用推進協議会主催)

9 月 29 日(日)おはぎ

10 月 27 日(日)ふかしいも

11 月はお休み

11 時より販売。売り切れ次第終了

田舎まんじゅう販売
第 1.3 日曜日 10:30～
お月見亭
(予約制手打ちうどんランチ)
第 2 火曜

※他にも様々なイベントがあります。詳細は、広報ふじみ、公式サイトなどでお確かめください。



富士見市立難波田城資料館
〒354-0004 埼玉県富士見市下南畑 568-1

TEL. 049-253-4664 Fax. 049-253-4665



資料館公式サイト

https://www.city.fujimi.saitama.jp/madoguchi_shisetsu/02shisetsu/shiryokan/nanbatajo/index.html

◆休館日／月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土・日・祝日を除く)、年末年始 開館時間／午前 9 時～午後 5 時

◇公園休園日／なし 開園時間／午前 9 時～午後 6 時(4 月～9 月) 午前 9 時～午後 5 時(10 月～3 月)